

大分市

授業力向上

ハンドブック

令和3年4月
大分市教育委員会

作成に当たって

今回作成の「授業力向上ハンドブック」は、平成29年に改訂された学習指導要領の全面実施に伴い、子どもたちに「生きる力」を育むために、これまでの本市の教育実践の蓄積を引き継ぎつつ、質の高い授業の創造に向け、授業づくりの考え方や授業に必要な指導のポイントを示しております。子どもたちに生きて働く「確かな学力」が身に付くよう、各学校においては本ハンドブックを校内研修等で活用し、「**主体的・対話的で深い学び**」の実現に向けた授業改善に向けて、組織的な取組が一層推進されることを期待しています。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【深い学び】

習得・活用・探究の学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

※授業改善のための視点であり、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で、実現していくものです。

目次

I 「主体的・対話的で深い学び」を生み出す授業づくり

- 1 授業づくりの考え方～授業力の向上に向けて～ 1
- 2 学習指導案の作り方 2
- 3 1時間の授業構想 3

II 魅力ある授業にするために～指導のポイント～

- 1 子どもが追究したくなる課題(導入) 4
- 2 考えを広げ、深める話合い(展開) 5
- 3 ねらいにせまる発問(展開) 6
- 4 深い学びへつなげる振り返り(終末) 7
- 5 個別の支援と授業展開の修正につなぐ机間指導 8
- 6 1時間の学びの様子が分かる構造的な板書 9

III 授業におけるタブレットの活用例 (可能となる学び)

I 「主体的・対話的で深い学び」を生み出す授業づくり

1 授業づくりの考え方～授業力の向上に向けて～

授業力とは、子ども理解力（子どもを把握・理解する力）、授業構想力（授業を構想・評価する力）、授業展開力（授業を実践・展開する力）であり、日々の授業づくりに当たっては、自分自身の授業力を向上させるために、ステップ1からステップ3の順番に取り組んでいくことが大切です。

ステップ1

【子ども理解力】

○子どもの実態把握

- ・学習の定着状況の把握
- ・学習への興味・関心の把握
- ・人間関係の把握



○学習指導要領等の理解

- ・資質・能力の確認
- ・見方・考え方の確認
- ・9年間の学習内容の系統性の確認



ステップ2

【授業構想力】

○教材研究（指導目標の達成に向けて）

- ・子どもの生活体験の実態等を考慮した、単元の指導目標達成に向けた構想案の作成
- ・単元、題材の趣旨やねらいを把握し、子どもに興味・関心をもたせるための教材・教具の準備



○学習（単元）指導計画の作成

- ・自校の教育課程に基づいた学習（単元）指導計画の作成
- ・子どもの実態を踏まえた学習（単元）指導計画の作成
- ・教科等の特質を踏まえた学習活動（言語活動）の設定

○評価計画の作成

- ・観点ごとの評価計画の作成
- ・場面や方法を明確にした評価計画の作成
- ・学習状況を想定した評価規準の設定

<参考>

- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料



➡ I-2 学習指導案の作り方(P2)を参照

ステップ3

【授業構想力】【授業展開力】

○本時案の作成（生徒指導の3機能を意識した「問題解決的な授業展開」）

- ・本時における明確なねらいの設定
- ・ねらいを踏まえた「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の設定
- ・学習過程「導入」「展開」「終末」の構想
- ・学習内容に適した学習形態（「個人」「ペア・グループ」「全体」）の工夫
- ・ねらいに迫る効果的な発問の設定
- ・子どもの思考の流れに沿った構造的な板書計画の作成
- ・子どもの学習状況を踏まえた個に応じた指導の検討

➡ I-3 1時間の授業構想(P3)を参照

➡ II 魅力ある授業にするために～指導のポイント～(P4～P9)を参照

■授業力自己評価表の活用

授業力を向上させるためには、自分の授業を客観的に評価することが大切です。授業力自己評価表を活用し、自己の「授業力」について定期的なチェックを通して、改善すべき視点を明確にしましょう。

※大分市教育センター HP> 教職員研修
> 研修資料・教育資料（パスワード入力）
> 授業力自己評価表

	評価の観点	評価規準	評価項目
子ども理解力	1 発達段階	児童生徒の発達の段階や個性を理解している。	<input type="checkbox"/> 児童生徒の発達の段階や個性を理解している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒に対して「傾聴、共感」の姿勢で、声かけしている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の思考スタイル、コミュニケーション力、発達の段階や個性を理解している。
	2 背景、環境、家庭理解	家庭との関わりを積極的にもち、児童生徒の家庭状況等、取り巻く背景や環境を把握している。	<input type="checkbox"/> 児童生徒の発達段階や個性、発達の段階等を理解している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の発達の段階や個性、発達の段階等を理解している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の発達の段階や個性、発達の段階等を理解している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の発達の段階や個性、発達の段階等を理解している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の発達の段階や個性、発達の段階等を理解している。 <input type="checkbox"/> 必要に応じて電話連絡や家庭訪問を行うなど
授業構想力	1 学習指導要領	学習指導要領の趣旨、内容及び学年間、校種間の系統性を理解している。	<input type="checkbox"/> 学習指導要領の趣旨や構成、内容を理解している。 <input type="checkbox"/> 各教科等において育成する資質・能力や見方・考え方等を踏まえて単元や授業計画を作成している。 <input type="checkbox"/> 各教科等の目標や内容を踏まえて単元や授業計画を作成している。 <input type="checkbox"/> 小中9年間の学習内容の系統性や身に付けさせたい知識等を踏まえて単元や授業計画を作成している。
	2 教材研究	児童生徒の生活体験の実態等を考慮し、単元の指導目標達成のために必要な教材・教具を準備したり、活用したりしている。	<input type="checkbox"/> 児童生徒の生活体験の実態等を考慮し、単元の指導目標達成のために必要な教材・教具を準備したり、活用したりしている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の生活体験の実態等を考慮し、単元の指導目標達成のために必要な教材・教具を準備したり、活用したりしている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の生活体験の実態等を考慮し、単元の指導目標達成のために必要な教材・教具を準備したり、活用したりしている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の生活体験の実態等を考慮し、単元の指導目標達成のために必要な教材・教具を準備したり、活用したりしている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の生活体験の実態等を考慮し、単元の指導目標達成のために必要な教材・教具を準備したり、活用したりしている。

2 学習指導案のつくり方

学習指導案は、授業を構想する際的设计図です。「子どもにどんな力を付けたいか」、「どんな手立てが有効か」などを考えながら、つくっていくことが大切です。

■学習指導案の内容（例）と記述上の留意点

1 単元(題材)名

2 単元(題材)目標

- 資質・能力の三つの柱(知識・技能/思考・判断・表現/主体的に学習に取り組む態度)に沿って、3観点それぞれ記述。

3 単元(題材)について

●教材観

- 教材が、指導事項(付けたい力)を身に付けさせる上から、どの点がどのように優れている(適切である)のかを記述。

教材観や指導観については、学習指導要領解説等を参照しましょう。

※教材の価値を中心に記述する。

●児童生徒観

- 本単元(題材)の指導事項(付けたい力)に係る学習状況を中心に記述。

※何ができていて、何が課題であるのかを的確に捉える。

●指導観

- 指導に当たり留意する点や指導事項(付けたい力)を効果的に身に付けさせるためにどのような手立て(工夫)をするのかについて記述。

評価については、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を参照しましょう。

※単元全体での指導を記述するとともに、本時においての手立てを記述する。

4 単元(題材)の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

5 単元(題材)の指導計画

次時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
	<ul style="list-style-type: none"> • 各次・各時に行う学習活動を記述。 ※「次」は単元の学習活動全体を、数時間ごとのまとまりとして区切ったもの。「時」は授業の1単位時間とする。 ※子どもの立場で記述する。(例) ペアになり、教科書本文の内容について、ピクチャー・カードを使いながら説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「学習活動」の欄に記述した活動を行う際に留意する点を記述。 ※教師の立場で記述する。(例) 4人程度のグループで紹介し合い、特徴的な発表を取りあげて全体で紹介させる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 単元(題材)の評価規準に基づき、どの時間にどの観点の評価を行うか、また、その評価方法を併せて記述。 (例) 中学校1年生 数学科 [主体的に学習に取り組む態度] 一元一次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 <観察、ノート、記述分析 等>

6 本時案 ねらい、展開等については、P 3を参照

- (1) 題材
- (2) ねらい
- (3) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価・備考

3 1時間の授業構想

1時間の授業を構想する際には、ねらいを明確に設定することが大切です。

また、「めあてと振り返り」「課題とまとめ」の呼応関係や生徒指導の3機能を意識して授業を構想していくとねらいを達成する授業につながります。

■授業構想上の留意点

題材 1時間の学習のまとまりに付けられる
単元名（問いかけ 表現活動等）

ねらい(主眼)

【追究対象】 ～を(について)

(題材、学習課題、主要発問等)

【着眼点】 ～により(を通して)

(見方・考え方、方法、手段、手立て、工夫等)

【到達点】 ～できるようにする(育てる)

※「育てる」は、道徳科

(付けたい力、子どもの到達像等)

(例) 小学校5年生 社会科

「川に囲まれた土地」

「見方・考え方」

家の屋根のあたりを車が走っているわけを、
上空から撮った写真や断面図から地形的特徴を捉えることにより、
川に囲まれた土地の様子を理解できるようにする。

「見方・考え方」を踏まえた着眼点を示したり、具体的に手立てを示したりする必要があります。



展開

導入

■めあて=学習すること

- ・学ぶ意欲を喚起
- ・解決の過程や方法の見通し

■課題=追究すること

- ・1時間の授業の中で、問題を解決するために、明らかにしなければならないことなどを設定

展開

- ・子どもたちが自分なりの考えをもつことができる「自己決定の場」を設定する
- ・子どもたちが自分なりの考えをまとめ、表現できる時間を確保し、「自己存在感」を与える
- ・交流活動等を通して、子どもたちが自分の考えを深化・拡充できる「共感的な人間関係」を育む

■まとめ=学習して分かったこと

終末

■振り返り=学習したことを実感すること

- ・学びを実感
- ・自分なりの考えをまとめ、表現
- ・次時の学習へつなぐ

※「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」は教科等の特性に応じて、順序が変わったり、どれかが位置付かなかったりすることもあります。

岐阜県海津市の地形について学習しよう



どうして車は屋根の上を走っているのだろうか

見通しをもたせる場面



屋根の上を車が走っているのではなく、堤防の上にある道路を車が走っているのが屋根の上を走っているように見える。住宅が川より低い土地にあるから、高い堤防を造って生活している。

写真や断面図から見ると海津市は川より低いところにある。そこに住む人はどんな暮らしをしているの？

II 魅力ある授業にするために～指導のポイント～

1 子どもが追究したくなる課題（導入）

「主体的な学び」を生み出すためには、教師の一方的な課題提示ではなく、子どもから問題意識を引き出し、課題の設定につなげていくことが大切です。

■課題を設定するときのポイント

次の取組などから、子どもたちの問題意識を引き出し、追究したくなるような課題にしましょう。

- 図や表などから驚きや疑問を引き出す
- 新たな学習内容と既習事項や生活経験とのズレや関連から引き出す
- 意見の対立や考えから引き出す



ICT 機器を用いて、実物やグラフ等を提示し、疑問に思ったことや気付いたことを話し合わせることで、課題を生み出すことも有効です。

ICT

■課題設定の例

	驚きや疑問から	既習事項との関連から	意見の対立から
ね ら い	<p>中学校1年生 理科 「物質の状態変化」</p> <p>水とエタノールの混合物からエタノールを取り出す方法を、物質の性質を基に粒子モデルを使って考え説明し合うことを通して、物質を分離する方法を見出すことができるようにする。</p>	<p>中学校2年生 保健体育科 「球技」(ゴール型:サッカー)</p> <p>基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、ゲームを展開することができるようにする。</p>	<p>小学校5年生 国語科 「明日をつくるわたしたち」</p> <p>提案したいことを1つにまとめるための方法を、提案理由や学校の現状及び問題点を基に協議することを通して、理由や根拠を明確にしたり、共通点や相違点を区別したりすればよいことに気付くことができるようにする。</p>
課 題	<p>どうしたら混合物から純粋な物質を取り出すことができるのだろうか。</p>	<p>効果的な攻撃を行うために、パスをつなぐときは、どのような動きをすればよいのだろうか。</p>	<p>いくつかの意見を1つにまとめるときは、どのような視点で考えるとよいだろうか。</p>
ま と め	<p>純粋な物質には、融点や沸点がそれぞれ決まっている。そのため、融点や沸点の違いを利用して、混合物から純粋な物質を取り出すことができる。</p>	<p>パスを受けるために、ゴール方向に守備者がいない位置に動くことにより、連携した攻撃につながるパスを味方に出すことができる。</p>	<p>根拠や理由をはっきりさせたり、共通点や違いを区別したりすると、提案することを1つにまとめることができる。</p>

2 考えを広げ、深める話し合い（展開）

課題を解決するためには、「認め合い」、「学び合い」のある「対話的な学び」が大切です。全体での話し合いだけでなく、ペア・グループ活動を適宜取り入れるとともに、ファシリテーター（話し合いなどを円滑に進行する役割を担う人）としての役割が教師に求められます。

古代の日本はどのような特色をもつ時代だったのでしょうか。「政治」「文化」「社会・経済」「国際関係」の四つの側面に着目して、話し合ってみましょう。

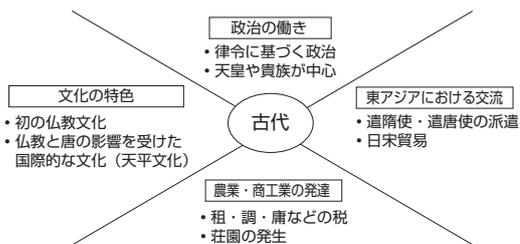
■ペア・グループ活動を取り入れた話し合いのポイント

- 考えを広げたり、収束したりするなど目的に応じた話し合いとなるよう、視点を明確にして進め方を示しましょう。
- 話し合うための手立て（子どもたちの考えたことを見えるようにし、考えることを助ける思考ツール等）を用意しましょう。



思考ツールの活用（例）

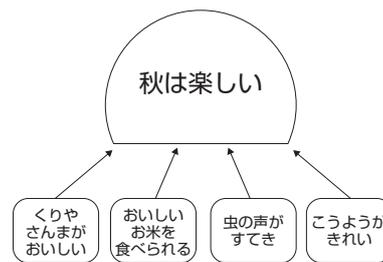
中学校 1 年生 社会科 歴史的分野



【Xチャート】

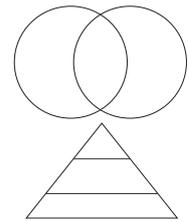
物事をいくつかのまとまりに分け、思考を整理する時に有効です。

小学校 1 年生 生活科



【クラゲチャート】

「なぜそう考えたのか」の理由や根拠を関係付ける時に有効です。



そのほかにもベン図やピラミッドチャートなど様々な種類があります。話し合いが深まるように、ねらいに応じて選択しましょう。

■ファシリテーターとしての教師の役割と発話（例）

【教師の役割】

【具体的な発話例】

ひろう

「A班は面白い発想をしているね。その考えをみんなに紹介してくれないかな？」

つなぐ

「B班は△△について困っているようだけれど、他の班で解決方法を考えたところはないかな？ あったら紹介してくれるかな？」

もどす

「みんなで話したことを基に、もう一度班で考えてみましょう。」

ひろげる

「それぞれの班で話した内容を、発表してくれないかな？」



電子黒板に映し出された資料を活用しながら自分の考えを発表することにより、学級全体で考えを広げ、深めることができます。

ICT

教師が子どもの発言に対して、上の4つの視点をもって、話し合いを進めることが大切です。



3 ねらいにせまる発問（展開）

発問は授業の生命線です。発問を検討する際には、「広げる」、「絞る」、「深める」などの発問の役割に応じて、「どのような場面で、どのような発問を投げかけ、子どもたちにどのようなことを学ばせたいのか」等を考えることが大切です。

■発問の役割とポイント

広げる

○導入等で多様な考えや疑問等、新たな気づきを幅広くもたせたいときに活用しましょう。

絞る

○子どもの考えを集約したり、着目させたいポイントを示したりするなど、話し合いを焦点化したいときに活用しましょう。

深める

○ねらいにせまるため、矛盾、葛藤、対立等を生み出すときに活用しましょう。

（例）小学校4年生 国語科 「ごんぎつね」

・「『ごんぎつね』を読んでどんな感想をもったかな？」

・「いたずらばかりするごんの気持ちが変わったのはどの場面からかな？」

・「撃たれてしまったのにごんの気持ちは兵十に伝わったのかな？」



各教科の特性や1時間の授業のねらいに応じて、どのような発問が必要か考えましょう。



子どもの発言に応じて問い返すことにより、さらに学びを深めることができます。

①～④の発問例を参考にしましょう。

なお、教師は正しい言葉を使い、発問や指示は簡潔に行いましょう。

■問い返しの発問（例）

①判断した根拠を問う

「どうしてそう考えたのかな。」「さらに、詳しく説明することはできないかな。」

②比較させて問う

「この考えと似ている考えはあるかな。」「この考えとの違いは何かな。」

③正誤を問う

「この考えは本当に正しいのかな。」「反対意見はないかな。」

④間違いの理由を問う

「どこが間違っているのかな。」「どこを直せばよいかな。」



1分の沈黙は2分の問いかけより思考を促す

問い返しの発問をする際は、矢継ぎ早に発問するのではなく、状況に応じて、適切に間をとることが大切です。

タブレットを用いて写真や動画等の資料を提示しながら発問をすると、より具体的なイメージをもって考えることができます。



4 深い学びへつなげる振り返り（終末）

「振り返り」とは、「学習内容を確認する」、「授業内容を現在や過去の学習内容と関連付けたり、一般化したりする」、「学習内容を自らとつなげ自己変容を自覚する」ことです。学習感想を書かせたり、適用問題を解かせたりすることにより、子ども自身に自分の学習を振り返らせるとともに、育成を目指す資質・能力の3つの柱がどのように身に付いているかを見取ることが大切です。

■振り返りのポイント

- 視点を示して学習感想を書かせることにより、分かったことを実感させたり、学んだことを日常生活や社会に関連付けて考えさせたりするなどしましょう。
- ねらいに応じて適用問題に取り組みさせることにより、学習内容の確実な定着や思考過程を説明する力などを身に付けさせましょう。

■学習感想による振り返り（例）

「分かったことは何か」、「友だちの考えでよいと思った考え方は何か」など視点を示して記述させることにより、子どもたちの「書く力の育成」につなげるとともに、書いたことを次の時間等に紹介することで、考えを広げ、深めることができます。



①友だちとの意見交流で、自分の考えが広がったり、深まったりしたこと

・「以前は△△と考えていたけど、〇〇さんの□□の考えが◇◇という理由で解きやすいと思った。」

②既習事項との関連や比較をしていること

・「以前は知らなかったけど、△△ということが□□ということとつながりがあることが分かった。」

③授業での達成感や充実感等、学びの楽しさを表現したり、疑問点や分からなかったことを表現したりしていること

・「△△の場合についてはよく分かったが、□□の場合について、さらに調べてみたい。」



■適用問題による振り返り（例）小学校4年生 算数科「分数のたし算」

【課題】

$\frac{3}{5} + \frac{4}{5}$ の計算の仕方はどうすればよいか

【まとめ】

$\frac{1}{5}$ のいくつ分になるかを考え、たし算すればよい

【振り返り】

ア 数値を変えて解き方を確認

$\frac{5}{7} + \frac{4}{7}$ の計算をしよう。

イ 解き方を図を使って説明

$\frac{5}{7} + \frac{4}{7}$ の計算の仕方を図にかいてペアで説明しよう。

ウ 計算の仕組に着目して説明

$\frac{5}{7} + \frac{4}{7}$ の計算の仕方を考え説明します。

次の空欄に数を入れて説明を完成させましょう。

【説明】

$\frac{5}{7}$ は（ ）が5つの分の大きさです。また $\frac{4}{7}$ は（ ）が4つの分の大きさです。合わせると、（ ）が（ ）つ分になります。だから答えは（ ）です。



算数・数学科では、ねらいに応じて上のア～ウのような適用問題による振り返りも考えられます。

5 個別の支援と授業展開の修正につなぐ机間指導

机間指導は、学級全体や子どもたち一人一人の学びの状況を把握し、あらかじめ構想していた学習活動や発問等に修正を加えることが可能となることから、授業のねらいを達成する上からも大切です。子どもたち一人一人の健やかな学びを保障するだけでなく、達成感や成就感を味わわせることにもつながります。

個に応じた指導・支援を行うことで、学習意欲を向上させましょう。



■机間指導のポイント

○机間指導の計画を立てよう

学級全体の学習状況を把握する場合や個別に指導・支援する必要がある場合など、目的に応じて机間指導の計画を立てましょう。

○支援の手立てを考えよう

子どもが問題を解く際に、つまずきが想定される場合は、既習内容に立ち返らせるなど、支援の手立てを考えておきましょう。

○子どもの思考をつなげよう

少人数での学習を行う場面では、ファシリテーターとして、一人一人の考えを生かしながら、話し合いを促すようにしましょう。

■机間指導で子どもを「みる」

- ねらいや学習課題を理解できているか、指示したことができているかを「みる」
- 学習課題に対する取組は大丈夫か、自分の考えを書けているかを「みる」
- 一人一人の困りやつまずきはどこにあるのかを「みる」
- 意見や考えはどのような傾向になっているかを「みる」



■実際の指導に当たって

個別に指導・支援を行う際には、子どもたちと同じ目線で、そばに寄り添って行うようにする。

子ども一人一人の考えを把握する際には、あらかじめ傾向を予測し、記号化してメモをとるようにする。

子どもの考えを指導者用のタブレットで確認し、指導・支援の必要な子どもを把握することも効果的です。

ヒントカード、教科書、掲示物等を活用して振り返らせる。時にはほめて自信をもたせるなどし、信頼関係を築いていきましょう。



座席表等を用いて、子どもの考えをすばやくメモするなど工夫しましょう。

大分太郎 A	大分花子 C
	2つの考え
荷揚次郎 B	府内城美 B

ICT



子どものどの考えを取り上げるのかを決め、授業後半の学び合いの展開に生かしていきましょう。



机間指導を行うことで、子どもが「根拠を基に考えを書けているか」「複数の考え方をしているか」「資料等と関連付けて書けているか」等を把握することができます。評価に生かすとともに、自らの授業改善につなげるようにしましょう。



6 1時間の学びの様子が分かる構造的な板書

板書は、授業における子どもの思考の過程や学びの様子を残すものです。一人一人が、学習の流れを確認しながら、学習内容の習得を図る上で不可欠なものです。子どもの学びを深める板書を心がけましょう。

■子どもの学びを深める板書にするためのポイント

整理

- 子どもの考え等を明確な視点をもって分類して表しましょう。



視覚化

- 子どもの発言やつぶやきの根拠を明らかにし、目に見えるようにしましょう。



構造化

- 「整理」「視覚化」に心がけ、考えの変容や子どもの思考の過程が分かる構造的な板書にしましょう。
- 振り返りで生まれた新たな発見や疑問などを今後の学習につなげましょう。

(例) 小学校2年生 算数科「1000より大きい数」

めあて 1000より大きい数を勉強しよう

前の時間のふりかえり
二千三百四十五を数字で表すと2345となる。

もんだい おり紙は何まいあるでしょうか。

前の時間はあったのに、これは100のたばがないなあ

三千二十五まいかな？

100の位がないってこと？

どうかけばいいのかな？

三百二十五になっちゃった

どうして3/25とかいたのかわかるかな？

百の位に何もなかったのかわかったのかな？

かだい 位に何もなかったときはどう書きあらわせればいいかな？

千の位	百の位	十の位	一の位
●●●	●●●	●●●	●●●●●
3	0	2	5

325

- ・百の位はつめた。
- 百の位がないときはつめて表す

3025 **3/25**

- ・百の位に0をかいた。
- ・百の位に / をかいた。
- 百の位がないから、何かを書いて表す

まとめ

位に何もなかったときは、その位に「0」をかいて、あらわせればいい。

ふりかえり

アメの数を数字であらわしてみよう。

1000 1000 1000 1000 10 10 1 1 1

千の位	百の位	十の位	一の位
●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●

※もっと大きな数だったらどうなるのかな？

「325…百の位はつめた」、「3025…百の位に0をかいた」のように、子どもの考えやその根拠を整理して位置付けると、考えの違いが比較しやすくなります。

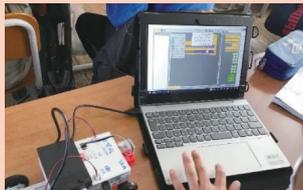
考えの根拠を図や式で示したり、子どもの発言やつぶやきを位置付けたりすることにより、思考の過程が分かりやすくなります。



音声は消えますが、板書は残ります。子どもたちが授業後にも、学びを振り返ることができる構造的な板書にするためにも、板書計画を作成し、授業に臨むようにしましょう。

Ⅲ 授業におけるタブレットの活用例（可能となる学び）

日頃の授業において、ノートや黒板を活用して行う従来の学習スタイルに加え、タブレット端末等を活用することで、子どもたちの多様な学びを生み出すことができます。

導入	課題を設定する	 	プロジェクトを活用して資料を提示する → P 4 を参照	
	見通しをもつ	 	予想を書き込み、交流する → P 8 を参照	
展開	自力で解決する	 	インターネット等を用いて情報収集する → P 6 を参照	
				
	発表・話し合い		考えを書き込む → P 5, P 8 を参照	
			意見を集約し、交流する → P 5 を参照	
終末	まとめ		まとめを書き込む	
	振り返り		評価カードをつける	
			ドリル問題に取り組む	

■ タブレットに入るアプリの一部

 グーグルドキュメント ドキュメントの作成、編集、共有などができる	 グーグルフォーム アンケートやテストを作成でき、すぐに集計できる	 グーグルスライド 複数のユーザーが同時に1つのプレゼンを編集できる
 グーグルスプレッドシート 1枚のシートを複数のユーザーが同時に編集できる	 グーグル Classroom 先生による課題の配布、提出状況の確認ができ、子どもとコミュニケーションをとることができる	

■ その他（実践授業の紹介）

○大分市学力向上ハンドブック



○T-LABO

(大分市教育センターホームページ内のコンテンツ)
 ・教職員の優れた実践指導「実践きらり！」32本
 ・わかる授業「ワンポイント指導」336本配信中（R3.3月末時点）



大分市授業づくり5つのポイント ～新大分スタンダードを踏まえた取組の重点～

- ① シンプル指導案や板書計画作成による授業の構想
- ② 見通しと振り返りのある問題解決的な授業展開（生徒指導の3機能を意識）
- ③ 学力調査結果等の分析を踏まえ、単元、内容等に応じた少人数指導・習熟度別指導等の実施
- ④ 授業観察、互見授業等を通じた教科部会等の充実による授業力の向上
- ⑤ 学習内容の確実な定着を図る取組の充実（授業と連動した家庭学習の実施）

（出典 大分市学力向上ハンドブック）